

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 岩本^{しゅんすけ}俊亮さん(奥州市)

取材担当 奥州農業改良普及センター 佐藤 亮太

平成31年に新規就農した岩本俊亮さんを紹介します。

地元である奥州市江刺と関東を往来しながら製造業等に就いていた岩本さんは、地元の同世代がりんごで就農していたこと、実家がりんご農家であったこと等から就農を決意。先進農家で2年間の研修を経て、実家の園地を継承する形で経営を開始しました。

栽培管理や剪定など基本技術の習得や鳥獣害対策等に苦労しつつも、定期的な改植により作業量の調整を図りながら、育成園を含む260aを経営しています。

親から継承した施設・機械が多く、新規で導入するものは少なかったのですが、就農2年目の令和2年度に事業を活用して運搬機と蜜入りセンサーを新規導入し、生産基盤の充実と作業の効率化を図りました。

通年で作業があるりんご栽培ですが、釣りやダンスなどの趣味にも打ち込む岩本さん。週に1、2回は趣味の時間を確保しており、時間管理能力の高さが伺えます。

そのほか、農福連携による労働力確保と地域雇用の創出、地元や県内企業と連携した摘果りんご等の活用による収益向上に取り組んでおり、益々の活躍が期待されます。



摘果作業をする岩本さん



令和2年度事業で購入した運搬機